

## 編集委員長からのご挨拶

会員の皆様に朗報をお伝えします。

2021年のインパクトファクターが発表されました。RMB (Reproductive Medicine and Biology) 誌は、4.009 と昨年の 3.239 から大きくアップしました。OBSTETRICS & GYNECOLOGY 分野におけるランクは 21 位 (85 誌中)、REPRODUCTIVE BIOLOGY 分野におけるランクは 11 位 (31 誌中) と上位にランクされています。これも、会員の皆様のご支援のおかげです。厚く御礼申し上げます。

RMB 誌は、2002 年に日本生殖医学会、日本受精着床学会、日本アンドロロジー学会のオフィシャル・ジャーナルとして発刊されました。そして、2016 年にはアジア子宮内膜症学会が、2020 年には日本卵子学会も加わりました。

現在、順調に投稿、掲載論文数が増え、年に 60 編以上の質の高い Invited Review や Original Article が掲載されています。また、2002 年の創刊号から掲載されている全ての論文が PubMed の検索できるようになっています。

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/journals/3326/>

我が国は、年間 40 万周期以上の ART が行われる世界一の生殖医療大国になっています。本邦の生殖医療・医学をさらに向上させ、その情報を世界に発信してゆくことは、生殖医療・医学に携わる我々の重要な使命です。日本が世界の生殖医療・医学を牽引していくためには、日本発の情報発信のツールである RMB 誌をさらに充実させていくことが重要ではないでしょうか。RMB 誌が世界に誇れる生殖医療・医学の国際的英文雑誌として、さらに発展しますように、今後ともご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2022 年 7 月吉日  
日本生殖医学会編集担当理事  
RMB 誌編集委員長  
杉野 法広